

## 将来ビジョン及び必要な取組・事業

<b>提案主体名</b>	総合的交通体系を軸とした東京都心価値向上検討会		※複数主体の連名の場合は「、」で区切って記入してください。			
<b>提案プロジェクト名</b>	総合的な交通体系を軸とした災害に柔軟に対応できる環境指向型まちづくりによる東京都心の価値向上プロジェクト		※同一主体で複数の提案をする際は別名称としてください。			
<b>対象地域</b>	<b>都道府県名</b>	東京都	※複数の都道府県にわたる場合は「、」で区切って記入してください。			
<b>① 関連する分野</b>	環境（あらゆる環境との調和、低炭素、持続可能な循環型社会） 超高齢化（健康、介護、社会的包摂の実現） その他（防災）		※国際連携・国際化に関する事項は、分野ではないため、「その他」欄に記載しないでください。			
<b>② 将来ビジョン（環境価値、社会的価値、経済的価値の創造に関する総合的な目標（2050年を見据えた上での2020年、2030年の姿））</b>		※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。				
<p>本プロジェクトが目指すもの(大きな目標): 総合的な交通体系の再編を軸として、あらゆる環境と調和するまちへ転換させ、まちの価値を向上させること。</p> <p>基本的な考え方: ○ 環境への調和:ここで環境とは、自然環境のみならず、住環境、生活環境、住環境、教育環境、労働環境、子育て環境、経済環境等の全てを含むものである。本プロジェクトはこれら全てと調和し、これら全てが充足されたまちの状況を目指すものである。 ○ 持続可能性:環境価値の持続可能な発展のみならず、人口、まちの魅力等の経済的なもの、社会的なものまで含めた持続可能なまちへの転換を目指す。特に、今回の震災や原発事故を受けて、東京の意味や各地域の位置が相対的に変化していくと考えられるところ、こうした東京の変化への柔軟に対応できるまちを目指す。 ○ 社会的包摂:高齢者のみならず、だれにとっても「やさしい」まち、災害に柔軟に対応でき、誰もこぼれ落ちることなく救われるまちを目指す。 ○ 経済的自立性:震災により周辺の県に支えられて存在している東京、特に東京都心の脆弱性が明らかとなったところ。財やサービスを消費するだけでなく、それらを生み出し、周辺地域と価値の交換ができるまちに転換することを目指す。</p> <p>これらを総合的な交通体系の再編を軸として実現することを目指すものであり、具体的な再編の方向性は以下のとおりである。 ① 基線となるLRT(次世代型路面電車)の導入 ② 既存のバス路線を再編し、小型の電気バスを活用して、基線に対して枝線となるきめ細やかなバス交通サービスを導入する。 ③ 基線たるLRTと連続する高規格バス(専用路を走行する連節バス)路線を導入する。 ④ 水上バスの航路を増設するとともに、基線たるLRTとの連続性を確保する。 ⑤ 電気自動車のパークアンドライドが可能な施設を基線たるLRT路線の周縁部及び高規格バス路線沿線に適宜設置する。 ⑥ 総合交通体系の利用に係る運賃の一体化 ⑦ これらの総合交通体系の沿線を中心に公共サービスを供給(施設の設置等)</p>						
<b>③ 将来ビジョン(②に記載した目標の実現のための取組の基本的な考え方)</b>		※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。				
<p>・しなやかな総合交通の体系が人と人、まちの機能と機能をつなぐ価値の高いまち、総合交通体系に沿ってまちの機能、様々な機能が分布するまちの実現。(現状の交通体系は都内や首都圏という視点が強すぎる。) ・既存の建物を壊して闇雲に新しい超高層ビル等を作るのではなく、既存の資産、資源を最大限活用して価値を向上させるとともに、新設する場合にあっては、エネルギー効率的な建物、建築方法とすること。 ・既存のまちの物理的構造を前提として、バラバラなまちの機能、緩やかなモザイク状のまちを新しい線=総合交通体系で結びつけ、社会的価値及び経済的価値の創出や都市・まちとしての利便性の向上につなげる。この時、ハコ線と面の物理的な入れ替えや再構成はしない。(それをするのは単に都市を、まちを破壊するだけ。) ・公共サービスに係る区民満足度の向上:現状では必ずしも高くない。これは、提供する側に起因するというよりも、提供側が質の高いサービスの提供に心がけていても、現在の都市構造による分断で、特にその提供方法、場所等との関連で、自由に設計できないことによるところが大きい。したがって、この改善のためには、首長主導で市民が利用しやすい、市民のためのまちづくりを進めることが重要である。 ・人口の過剰増(減少しないこと)と定住化の促進。ただし、単に人口を増やすというのではなく、高度人材やクリエイティブ人材を増やす。併せて、居住者及び交流人口を含め、新しい人の流れを創出する(区内を回遊し、循環する流れ) ・排出ガスの大幅抑制。(低炭素というよりも、大気汚染物質である窒素酸化物の排出を抑制⇒きれいな空気で快適な生活環境) ・中心市街地(商業地域、業務地域)から、バスと緊急車両を除いて自動車の乗入を抑制(一部ではタクシーも可) ・緑地と親水の改善により、都心にいながらも緑豊かな郊外に感じるように感じられる環境を整備するとともに、ヒートアイランド対策の一環として、これ以上の超高層ビル、住宅等の建設を抑制する。 ・近隣消費、適量消費への転換を通じて地域の商店街の活性化につなげる。 ・ハードではなく、ソフトな技術、ソフトな方法の活用</p>						
<b>④ 将来ビジョンの実現のために5年以内に必要となる具体的な取組・事業(技術・システム、サービス、仕組み等)</b>						
番号	取組・事業の名称 ※異なる名称を付けてください。	取組・事業の概要 ※500文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。	取組・事業の期間	実施主体・運営主体 ※複数主体の連名の場合は「、」で区切って記入するとともに、それぞれの役割を( )内に記入してください。	価値、分野の種類	国の支援の必要性 ※必要性がある場合、「○」を記入してください。
(1)	導入に関する検討	地公体のまちづくりに関する施策とLRT導入の意義の親和性の確認、地域特性及びLRT導入の意義の整理、想定導入ルート案に基づくLRT導入時の需要想定、総建設費及び事業収支の基礎評価、想定導入ルート案と道路空間の関係に係る課題の検証、自動車交通への影響の評価(基礎評価)等を関係者が連携して検討。		関係地公体及び民間企業等	環境、超高齢化	
(2)	執行可能性の調査(いわゆるF/S調査)の実施	需要の在り方、人の流れの変化の在り方、どのような走行区間がいいのか、どのような車両がいいのか、まちがどう変化しうるのか等について、複数の新しい交通システムを想定しつつ、事業の実施可能性等について調査を行う。		関係地公体及び民間企業等	環境、超高齢化	○

(3)	企画提案の募集	LRT等の新しい公共交通システムの導入について、上下分離方式を前提として、どのような役割分担で、どのような手法により導入し、及び運営することとするのが妥当であるのか、どのような交通システムとすることがまち・地域にとってふさわしく、まち・地域の価値の向上につながるのか等について、導入空間、関連したまちづくりと併せて民間事業者等からの自由な提案を募集するもの。なお、あくまでも提案の募集であって、直ちに事業者の選定につながるものではないが、よりよい提案を行った者については、実際の事業者の選定において応募した場合における、一定程度優先権の付与、評価点の付加、提案作成費用の一部補助等も検討すべき。	関係地公体	環境、超高齢化	○
(4)	事業の公募	企画提案において提出された提案のうち、もっともふさわしく妥当であると判断されたものを中心に当該事業の具体的内容、個別業務の内容、契約の形態、費用、実施期間、確保されるべきサービスの質、入札参加資格評価基準等について決定し、指名競争入札により事業の公募を行う。	関係地公体	環境、超高齢化	○
(5)	工事、道路空間等の再配分	LRTの場合にあつては、単に道路に軌道を敷設し、必要な附帯施設を設置するのみならず、導入空間について、自動車中心から出来る限り公共交通と歩行者及び自転車を中心としたものとする等、新しい公共交通の導入の効果を最大化するとともにまちの価値向上につながるよう導入する道路空間の最適な再配分を行う。	関係地公体及び民間企業等	環境、超高齢化	○
(6)	公共交通システムの運営	いわゆる上下分離方式により、インフラの保有主体(地公体)とは別の民間企業(SPO)が関係事業者等と連携しつつ、まち・地域の価値の向上につながるよう運営。	民間企業等	環境、超高齢化	○
(7)	まちの再編	LRT等の新しい交通システムの導入により変化した人の流れ等を踏まえつつ、まちの機能を段階的に再編する。なお再編にあたっては、「こわして作る」から「生かして使う」という考え方に基づき、また新たに当該地域に流入したクリエイティブな人材等の知見も活用しつつ、これを行うこととする。	関係地公体及び民間企業等	環境、超高齢化	○
(8)	公共交通の体系を軸にした防災設備の手当て	公共交通の体系に沿って防災施設や設備を手当てするとともに、ハードよりもソフト、つまり運用方法や使い方を重視し、公共交通の体系により避難経路等を明確化する、すなわち、公共交通の体系を辿っていけば避難できる仕組み、公共交通に乗っていれば助かる、安全であるようにする。緊急の場合は、公共交通の後を追って走れば自動車も逃げられるようにする。	関係地公体及び民間企業等	環境、超高齢化	○
(9)					
(10)					

**⑤ ④に記載した技術・システム等をインテグレートして実現するイノベーションの内容** ※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。